全日病発 第212号
2026年11月13日

公益社団法人　全日本病院協会
会員病院　各位

公益社団法人　全日本病院協会
会　長　神野　正博
看護師特定行為研修委員会
委員長　中尾　一久

特定行為の実践による効果についての調査へのご協力のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

平素より本会の事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、昨今の特定行為研修修了者の養成状況でございますが、この制度が創設されてから、10年を超えました。厚生労働省が掲げております「修了者10万人」の目標に対し、2025年9月時点で約1万4,000人まで増加しております。しかしながら、その多くは病院勤務であり、医師のいない在宅医療や訪問看護ステーション、高齢者施設等での修了者は、いまだ数%にとどまっております。このため、当協会といたしましては、今後ジェネラリストとして活躍できる修了者の育成にも、いっそう力を注いでまいりたいと考えております。

こうした中、特定行為研修修了者（特定看護師）が現場で実践することによって、医師の指示待ち時間の解消や患者の状態悪化の早期発見・早期対応、多職種間の連携の円滑化、さらには医師のタスク・シフト／タスク・シェアや時間外労働の削減といった効果が期待されております。一方で、これらの効果を客観的かつ定量的に示すデータは、いまだ十分に整っているとは言えません。

そこで当協会では、特定行為の実践がチーム医療および医師の働き方に与える効果を、医師・特定看護師・多職種スタッフそれぞれの視点から定量的に明らかにすることを目的として、本調査を実施することといたしました。得られた結果は、学会発表・論文投稿、ならびに特定行為研修制度の一層の普及と修了者の活動の場の拡大に向けた政策提言・要望活動の基礎資料として活用してまいります。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

敬具

記

１．調査の実施ルートについて

本調査は、次の２つのルートでご案内しております。

① 当協会会員（貴院）から、貴院の職員の皆様への展開

② 当協会と共同して看護師特定行為研修に関するｅラーニングシステム「全日病SQUEeラーニング」を開発しているヴェクソンインターナショナル株式会社が、同社に登録されている看護師へ直接連絡

両ルートで重複してご案内が届く場合がございます。すでにご回答済みの方は、調査票のＱ１で「他のルートで既に回答済み」をお選びください（重複してご回答いただく必要はございません）。

なお、会員病院の皆様へは、本依頼文をメールとFAXの両方でお送りしております。同じ内容のものが重複して届く場合がございますが、いずれか一方をご確認いただければ結構です。

２．院内への周知のお願い

本調査は代表者１名にご回答いただくものではなく複数の職種・立場にご回答いただくことを予定しております。つきましては大変恐縮でございますが、**貴院のできるだけ多くの職員に本調査をご案内いただきたく**お願い申し上げます。

※同一施設から複数の職種・立場の方がご回答いただくことは歓迎します。職種ごとの視点を分析に活用いたします。

なお、貴院に特定看護師（特定行為研修修了者）が配置されていない場合は、院内への周知は不要です。お手数ですが、代表者１名の方が、調査票のＱ５までご回答ください。Ｑ５で「配置されていない」を選択いただくと、回答は終了いたします。

３．回答方法について

Google フォーム（以下 URL または右記 QR コードよりご回答ください）

URL: https://forms.gle/SkjiyT8rS2aJeGdD6

４．回答期限

１２月１４日（月）までにご回答いただけますと幸いです。

５．その他

・ご回答いただいた内容は集計・分析及び学会発表・論文投稿・政策提言・要望活動の目的に利用し、個別の病院、回答者が特定される形で公表することは一切ありません。

・調査に関する質問は、メールでのみ受け付けております。

【問合せ先】

公益社団法人　全日本病院協会　看護師特定行為研修担当（吉田、向井、中込）

メールアドレス：tokuteikoui@ajha.or.jp